

關東震災 酒なしデー 記念日に

平町が反省を促す催し

平町では來月一日が關東大震災の滿十週年記念に當るので一般市民の反省を促し發奮の實を擧げる爲の當日は各教化團體、教育會、婦人團體、青年團等協力して『酒なしデー』を催す事となり是が宣傳の爲め印刷物の配布、ポスターの掲示、講演會開催等計劃中

晴れの舞臺へ

精出す平商選手

室原部長心配して語る

北日本中等學校庭球選手權大會に初出場し見事優勝全日本中等學校大會の出場權を獲得した平商の安島木田組は愈々來る十月二十七日より明治神宮コートに於て開催される晴の檜舞臺に出場する事になり直ちに練習を開始したが選手の意氣込み物凄く室原部長は左の如く語つた

愈々願望の明治神宮大會に出場する事になりました、我が平商の名を天下に轟かすのは此の時です明治神宮大會は各縣の弱者が集るだけに豫想が着かず果してどの程度迄戦ふか全く心配です、然し以前決勝戦迄出場した磐中の鈴木篠原組と較べ優るとも劣らぬ自信があり

滿鮮から一筆

釜山公會堂にて伊東一

大石橋の日本町に連なる支那町の道路の悪い事は殊の外だ、滿洲の支那街は一帶に道路が悪い雨にはぬかるみに窮し天氣ならほこりに苦しむ町外れからは道がない田でも畑でも

た處が道路になる、支那家屋の屋根は高梁と泥と鹽で平たく堅めてあるそれで雨がもたない、そして小さな家にウヨウヨと住んで居る、内地とは比較にならない、支那町は丸

本日の教員庭球

磐女軍惜敗して

好間再び優勝カップを

既報第六回濱三郡教員庭球大會は本日磐中コートに於て開催する管の處都合に依り會場を磐女コートに變更午前十時より開始参加チームは二十六チームであつたに拘らず棄権が多く十二チームで何れも各校選り抜きに強者だけに大接戦を演じ結局昨年優勝の好間鈴木中山組と磐女大内鈴木組の決

勝負となり磐女軍利あらず惜しくも敗れた、因に戦績は左の如くである

△準決勝
好(鈴木4-1)平(水竹中山1-3)根本
磐(大内4-3)平(井上鈴木4-1)佐藤
△決勝
好(鈴木4-3)女(大内中山4-3)女(鈴木大内)

繭相場が又騰る

四倉繭市場大活況

四倉繭市場は取引相場は繭上りの高値を續けて居るが

で炭坑長屋の様だとして街路で市を立て、商賣をして居る、大石橋から管口へ行つた、こゝには日本人が三千人位居ると云ふが

日本町は淋しい、其代り支那町は賑かだ、一度支那町へ行つたが大通りにはやつぱり商取りに續いて芝居小屋、飲食店、娯妓屋が雜然と並んで居る、ほこ

にくい敗け方はしないだらうと思つて居ります、只其の時の調子に頼るより外ありません

山田助役推薦 石城郡山田村では去る廿六日午前十時より村會を開き助役を改選満場一致で秋山藏之助氏を推薦した

河川の改修に一日

一千七百人出動

を急いで居る

石城郡夏井村地内夏井川及び仁井田川の改修工事は本月上旬より着工の豫定であつたが既報の如く土地賣收問題で地主間と意見の相違を來し其の手續が遅れて居たが此程圓滿に解決したので目下兩河川の地元民を一千七百人宛使役して工事

梨の出廻りを控へ

本郡聯合會が共同出荷協議

石城郡果樹聯合會では來月一日午前九時より團體事務所樓上に於いて役員會を開き梨の共同出荷に就いて協議する

高木君が除隊

平紺屋町高木大五郎君は麻布歩兵第三聯隊を今般除隊となり明日午後三時十七分着にて歸郷すると

平町人事

- △研町六 大久保善八郎氏 二女昌枝
- △仲町八 大野與四郎氏 女カツ
- △長橋町五二 當時横濱市 神奈川區淺野町五〇六須藤近一氏二女美智子
- △田町二九 當時東京市下谷區二長町五五田中綱三郎氏四女シノブ
- △古鍛冶町十 儀正氏孫柏原一夫(二ツ)
- △回死 仁

英國資本で出來た汽車で今は滿鐵に委任されて居る滿洲の鐵道はどこでも乗手は多勢だ、支那の苦力が多い、彼等はどこを目的に歩いて居るのか?...全財産を包んだ大荷物を背負ふもあれば抱へるもあり、頭の上に乗せて居る者もある。

玉炭 炭 平驛前
石炭 炭 阿部石炭商店
コークス
電話 三七番

美味! 芳醇!
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

豚 鹽 肉 蒲 銚
屋三二三 町 田

昨夕の落雷

豊間の劇場に

幸ひ人蓄に死傷なし
昨廿九日午後二時頃平地方に久し振りの降雨があり突如轟然たる雷鳴と共に豊間村劇場豊盛座に落雷屋根を突抜いたが死傷者はなく損害百餘圓であると

接客業者に

虎眼が最も多い

既報平署では去る廿八廿九の両日同署會議室で市内接客業者の健康診断を行つたが受診者は女給九十八名、藝者七十七名、酌婦九十二名、理髮業者や其他の者九百三十二名、合計千二百二十二名にて診察の結果トラ

金時計三ヶ

鷲掴みにして逃ぐ

『泥棒、泥棒の……』聲に

通行人が取押ふ

平町田町五七時報堂時計店へ昨廿九日午後九時半頃時計を求めて来店した青年あり店員に十餘種の時計を出させてその際に乗し金腕時計三ヶ(時價六十圓餘)を持つて戸外に逃げ出したので店員が『泥棒、泥棒』と連呼しながら追跡の際通合した同町三二三屋肉店の齊藤二郎(九)君が伴の青年に飛かゝり大格闘の上取押へ平

自殺すること

石城海岸へ

東京市下谷區入谷町二六八高田太三郎方雇人長田義雄

(三)は本月一日より神經衰弱に冒り治療中たる廿八日自殺する旨の遺書を残して家出したが石城郡の海岸に向つたらしいと本日平署に捜査方を願出た

戸籍吏會出席

平區裁判所管内戸籍吏會々頭中島十藏及び副會頭小野榮一の兩氏は本日より二日間双葉郡久之濱町筒木原分教場に開かれた双葉郡下戸籍吏會に出席の爲め本日平十一時十八分にて出發した

就職口探しに

平署へ虚偽の訴へ

運轉助手化の皮をはがる

笑へぬナンセンス

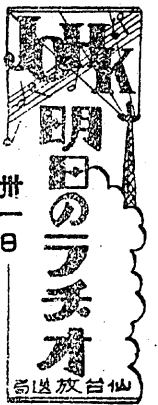
昨廿九日午後六時頃平警察署の受付へ一名の青年が来て自分は神奈川縣浦賀町字田中二〇鈴木一郎(三〇)と云ふ者が数日前郡山驛前で平町の平タクシの主人と云ふ男と自動車助手になる約束で保証金五圓を渡したが来て見ると斯云ふタクシがなく途方に暮れたと訴へた

村當局も耐りかね

小作人相手に調停の申立

近く平支部が裁く

双葉郡大野村にては村長石田彌常氏を法定代理人として同村民渡邊茂、木幡孝藏、岡本安治、武内清利、林四郎、末永米丸、米田斐、山田胖、山田秀利、堀長之助、泉田勘治、加藤達雄、熊傳八、紺野辰己、杉内朝美、



今晩も明日も晴東の風晴曇半し驟雨模様

- 今晩の部
- 後六、〇〇(子供の時間)
- お話「七郷の都落ち」梅田育太郎
- 後六、二五 傳説と史蹟を採ねて(十五)「上毛三山に残る説傳」佐藤錠太郎
- 後七、三〇 趣味講演「松翁先生は萩がお好き」鈴木善四郎
- 明日の部
- 後八、〇〇 歌謡曲 二三
- 吉その他
- 後八、二〇 浪花節「訴訟大膳」春日亭清吉
- 後九、〇〇 長唄 新曲「杵島」唄杵家七代 三味線浦家彌七 上調子杵家七光
- 後九、三〇 時報ニュース 氣象通報 番組豫告

- 前六、三〇 キリスト教講座「キリストの神國」川口卯吉
- 前七、三〇 夏期ドイツ語講座(十七) 三浦吉兵衛
- 前九、一〇 料理献立「朝鮮料理」(青泡) 成田玉純
- 前一〇、三〇 家庭講座「吃音矯正に就て」石井漢
- 後〇、〇五 映畫物語「銀嶺征伐」樋口旭瑠
- 後二、〇〇 夏期講習「人形玩具の描き方」(終) 西澤笛吹
- 後六、〇〇 子供の時間
- 童話劇「お月夜のカチカチ山」J.O.A.K 唱
- 劇
- 後六、二五「傳説と史蹟を採ねて」(十六)「善光寺平と姥捨山傳説」山口菊十郎
- 後七、三〇 舞臺劇「小栗栖の長兵衛」(前篇) 市川猿之助 一座
- 後八、三〇 音楽樂(ジャズ) 獨唱付 獨唱 青木晴子 日本ポロイドル、ジャズバンド
- 後八、四〇 舞臺劇「小栗栖の長兵衛」(後篇) 市川猿之助 一座

他町村より優るも

昨年よりは稍劣る

平町壯丁の學力調査

既報平町本年度壯丁二百一名の學力調査は去る二十六二十七の兩日執行されたが不就學一、尋半途七、尋卒四三、高卒七〇、實補半途八、中在半途二七、中卒三一、専門九、大學卒五で平均成績は國語七、四四分強、算術四、九分弱、公民科六、六分強とあり之れを他町村に比較する時は幾分良好なるも昨年に比すれば稍劣つて居ると

海外植民事情の

講演と映畫の會

平第三小學校に關く

平町役場では海外植民地の事情を明らかにしめんが爲め來月一日午後七時より第三小學校講堂に於いて講演及び映畫の會を催すが講師は拓務省囑託中西周甫氏で映畫はブラジル國移住事情外數種であると

回職を求める方

- △ 雜夫 四十一才 尋卒 給料面談(平町某)
- △ 事務員 二十三才 乙商 給料面談(湯本町某)
- △ 料理人 三十一才 尋卒 給料面談(茨城縣某)
- △ 小役員 十九才 高卒 給料面談(湯本町某)
- △ 商店員 十六才 尋卒 給料面談(高久村某)
- △ 女中 十六七才 尋卒 給料面談(平町某醫院)
- △ 女中 三十位 委細面談 (平町某カフエ)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第二十九回 血に飢ゆる村正

俺れが當つてやる

源十郎から酒を温めて貰ひたい、暫時此の縁先を借して貰ひたいと言はれましたので

女「左様でございますか、斯ういふ汚い所でお宜しければ、御緩り御休息遊ばしませ、生憎酒の道具もございませんが、土瓶でお宜しうございますか」

源「イヤ何でも爛が出来れば宜しいので、どうかお願いひたい、お組頭どうぞ此方へ、只今當家の内儀であるが、是れなる婦人に頼みまして、此處を借りました、此の邊は大分景色の好い所でございませう」

平「左様か、大きにどうも手敷を掛けて氣の毒だな」

女「どう致しまして」
兎角する中に瓢箪を渡すと、女は土瓶で爛をいたし有合せたる香の物等を膳へのせて出しますから、平「イヤ構つて呉れるな、酒の爛さへして呉れば宜い氣の毒な手仕事を止めさして」

女「イエ大事でございます」
源「どうも御新造種々御手数で」
女「お止し遊ばして下

まし、御新造などと仰せが

ございませうと、甚だ迷惑いたします、手前は獨りでございませう」

源「ハア只今は獨りで、お連合は何か他家でもなすつて」
女「イエ然うではございませ



せん、獨身で斯様な所に一人住居を致して居ります」
勝平太是を聞いて
平「ア、然うか然しかゝる所に獨住居をして居るといふは」

女「イエ近所の者に助けられま、世は捨てませんが世に捨てられたといふ事でございます」
源「ハア夫はどうも恐れ入つたな、お手前のやうな婦人を獨りで置くといふは、名玉を泥中に埋めて置く様なもので」
女は少々頬に笑を含み
女「お戯れも大抵に遊ばして下さませう」

源「イヤ戯れでない、實に恐れ入つた、お頭、然うではございませんか、」
平「大きにそうだ、どうだ、斯様な所に居るより、

は出来兼ねます、寧ろ尼にでもならうかと心得て居ります位で、」
と初めて逢ふ勝平太や源十郎の前で隣れな話に平「ハア何かな、見受ければまだ二十の上を幾つも越へんやうだが、尼になるといふのは、是れまで不幸にして夫や、子供にまでも別れ、世の味氣なさを悟つてさういふ心を起したのでもあるかな」
女「イエまだ私は亭主を持ちました事はございませんから、子供の味を存じませんが、両親共に別れまして最早便りに思ふ者もなく、生涯斯様な生活をして居るよりは、寧ろその事尼にでも成て了はうと存じまして」
平「ハア、両親に別れ外に同胞もない、それが爲尼にでもならうといふ、それは近頃婦人短氣と申すものだ、恰度今が年頃で随分世話する人もあらう、イヤ氣の毒だがモウ一つ爛をして貰ひたい」
女「かしこまりました」
と土瓶を持つて向ふへ立つた、後姿を見ながら勝平太が
平「源十」
源「ヘ」
平「どうも却々賤しからざる婦人だな」
源「左様でございます」
平「貴様も獨身だ、どうだ縁は何處にあるか知れんものだ、私が一つ媒酌をしてやらう、貴様の妻にしたら宜からう」
源「お頭、相變らず御冗談

を仰しやる」
平「イヤ、冗談ではない言葉遣ひといひ、行儀作法も辨へて居る様子、自分は在郷者といふが、元は必ず武家に育つた者と思ふ」
源「そんなにお頭仰しやるなら、貴所如何です」
平「イヤ私はモウ年も老つてるが貴様に恰度宜い、俺が一ツ當つて見やう」
源「止して下さませう、何だか極りが悪うございませから」
平「ナニも極悪い事はない」とソコで酒の勢はひで、勝平太が眞面目ではそんな事も云へませんが、酔つて居たものでございませうからツイお喋舌になつて
平「エー婦人や、」
女「何ぞ御用でございませうか只今御かんが出来ませう」
平「酒はマア然うして置いて、少し話がある」
女「何でございませう」
平「善は急げといふから、早速話すが、是は拙者組下馬淵源十郎といふ者で、某しは五百石を頂戴して居る勝平太と申す者だ」
女「左様でございませうか御高名まで承はつては、恐れ入ります。」

科人婦・科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

佛具の御用は...
まづ 栴屋へ!!!
御佛壇 佛位牌 奉仕段 大特賣
◎御位牌の戒名もお書き致します
平町二丁目 栴屋家具店

吉田眼科病院
平町屋町 電話六八番

大勝園
茶器 壹揃 金三十八錢より
名入 大勝園 四半斤 金三十二錢より
三丁目
大勝園
電三九六番

皆様 今年の御中元には何品を御撰びになりませうか。
先づこの御家庭様からも喜ばれます
京茶器と 銘茶大勝園 お撰び下さい。